

令和元年度 長野県看護大学運営協議会 議事要旨

日 時 令和元年 11 月 8 日（金）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
場 所 長野県看護大学 管理棟 大会議室

【出席者】

委員

笠原 悦 男	松本歯科大学 衛生学院長
春日 俊 也	駒ヶ根商工会議所 副会頭
川島 良 雄	長野大学社会福祉学部 学部長
久保 貴三子	長野県看護大学同窓会 諏訪中央病院 看護師長
坂江 千寿子	佐久大学看護学部 学部長
代田 とみ子	飯田市立病院 副院長兼看護部長
杉本 幸 治	駒ヶ根市長
中村 敦 子	長野県立木曽病院 副院長兼看護部長
中村 杏 子	飯島町 健康福祉課長
藪原 明 彦	やぶはら小児科医院 院長
渡邊 由 夏	長野県訪問看護ステーション連絡協議会 会長

（五十音順 敬称略）

看護大学

学 長	北 山 秋 雄
学部長	渡 辺 みどり
教 授	太 田 克 矢 （運営委員会委員）
教 授	坂 田 憲 昭 （ ” ）
教 授	伊 藤 祐 紀 子 （ ” ）
教 授	望 月 経 子 （ ” ）
教 授	金 子 さ ゆ り （ ” ）
教 授	藤 原 聡 子 （ ” ）
事務局長	宮 村 泰 之 （ ” ）
次長兼総務課長	米 山 武
教務・学生課長	鮎 澤 宏 和

県医療推進課

課長補佐兼看護係長	小 林 由 利 子
看護係 担当係長	西 村 温

【議事次第】

- 1 開 会
- 2 学長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 看護大学の概要について
 - ア 大学の概要
 - イ 入学者・卒業生の状況
 - (2) 第3次中期構想（2019年度～2023年度）について
 - (3) 大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について
 - (4) 令和3年度（2021年度）入学者選抜について
 - (5) 看護管理・看護教育部門の充実について
 - (6) 意見交換
- 4 その他
- 5 閉 会

【配付資料】

- 1 長野県看護大学の概要
- 2 令和元年度 当初予算の概要
- 3 入学志願者・入学者等の推移
- 4 平成30年度 卒業生・修了生の進路状況
- 5 第3次中期構想（2019年度～2023年度）
- 6 大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について
- 7 令和3年度（2021年度）長野県看護大学入学者選抜について
- 8 看護管理・看護教育部門の充実について
- * 自己点検・評価報告書（平成30年度分）
- * 看護実践国際研究センター 平成30年度 実績報告書
- * 令和元年度 出前講座パンフレット
- * P A T H W A Y

1 開 会

2 学長あいさつ

ご多用の中、皆様方全員に大学運営協議会にご参集いただき心か御礼申し上げます。

さて、今年も早7か月が過ぎました。この間、この大学にもいくつかのことがありました。その中から幾つかかいつまんでお話したいと思います。

一つは、国際学術交流についてです。去る5月25日、26日と中国揚州大学看護学院と揚州大学で老年看護国際フォーラム2019をこの大学と共同開催しました。本学から3名の教員が、日本からは5名が参加し、中国国内外から総勢で250から260名の参加者がありました。日本の老年看護や在宅看護の現状をお話し、活発な議論が行われました。これは、私の方針の一つである中国を含めた東アジアの国々とのSDGs、とりわけすべての国の人々の健康と福祉を向上させることを念頭においた活動の一環でした。大変有意義なフォーラムであったと思っています。今、世界は大きく変わっていると思っています。その中でこうした学術交流を推進しながら、日本およびアジアにおけるハブカレッジとしての本学の役割をめざしていきたいと思っています。

もう一つは、この大学でリカレント教育をもう少し充実させたいと思っています。その理由は、御存知のように今年の4月に2つの看護学部が長野市にできました。長野県では5つの看護系大学ができたこととなります。今日の新聞報道によれば、2021年には松本看護大学ができる予定で、本学のオリジナリティーやブランド化は必須だろうと思っています。特に長野県の看護職者の需給見通しは、ほぼ90%から100%近いといわれています。地域の偏在はあるとしても全体として100%近いとなると、単なる看護職者の人材育成だけではこの大学としての将来性はないと言わざるを得ません。生き残っていくためには、大学としてどのようなオリジナリティーをもち、ブランド化を進めていくのかがとても大事になってきます。後程説明する第3期中期構想で掲げている「地域に学び、未来を拓く」という行動理念、中でも地域とともに発展するということがとても重要だと思っています。リカレント教育を他大学との差別化、オリジナリティーの一環として位置付けたいと思っています。この件については後程詳しく説明したいと思っています。

もう一点は、御存知のとおり現状ではこの大学は県の直営の大学です。独立行政法人化については、今、少し止まっています。去年もお話しましたが、私が学長になった当初、知事から独法化はどうしますかと聞かれたときに、私は独立してもやっていく自信がありますので、独法化するなら是非二法人二大学でお願いしますとお答えしました。推測の域を出ませんが、知事は一法人二大学、あるいは本学が一つの学部となる一法人一大学を考えていたのかもしれませんが、しかし、この地域とともに発展するためには、南信地域に大学があるということはとても重要だと考えています。地域包括ケアといわれる今の時代に、地域の中でも極端に言えば県の北部と南部とでは医療に格差があるとすら思っています。そういったことを考えたときに、この大学のあるべき姿や将来を考えたときに、

この大学が地域とともに発展するためには是非この大学が独立してあることに意義があると考えています。本日は県の医療推進課の方もおいでですが、そういったことを考えながらも一方では、県と緊密に連携していくことがこれまで以上に重要だと思っています。現在県では、長野県総合5か年計画や信州保健医療総合計画が動いていますが、私どももそれにきちっとコミットメントすることも必要ですし、県の保健・医療・福祉行政の中にきちんと関わっていくことも重要だと考えています。いずれにしましても、「地域に学び、未来を拓く」という行動理念の下に大学運営を進めていきたいと思っています。これからも皆様方の御理解と御協力をお願いしたいと思ひますし、今回の運営協議会における皆様方の御意見を真摯に踏まえながら大学運営に反映させていきたいと思っています。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 議 事

(1) 看護大学の概要について

ア 大学の概要

- ・概要及び令和元年度予算について、事務局長から説明。 資料1 資料2

イ 入学者・卒業生の状況

- ・入学者の推移、昨年度の進路状況等について、教務・学生課長から説明。

資料3 資料4

(2) 第3次中期構想（2019年度～2023年度）について

- ・構想の概要について、学長から説明。 資料5

(3) 大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について

- ・結果の概要について、教務・学生課長から説明。 資料6

(4) 令和3年度（2021年度）入学者選抜について

- ・選抜方法の概要について、坂田教授から説明。 資料7

なお、資料の中で英語の外部試験（大学入試センターによる認定試験）を活用している部分について、11月1日に文部科学省から発表があったように、新たな入学試験制度において外部検定試験成績を活用するシステムの導入が見送られたことから、英語の外部検定試験の活用については改めて検討することとしている旨の説明がなされた。

(5) 看護管理・看護教育部門の充実について

- ・充実内容の概要について、学長から説明。 資料8

以上に関して委員から出された質問・意見と、大学からの回答は以下のとおり。

- 新しい入学者選抜でだいぶ変わるようですが、大まかに分けると推薦が今まで 30 名だったものが 32 名になり、一般が 2 名減って全体では 80 名で大きな変更はないと思いますが、学校推薦型選抜について新たに学校推薦型 B が加わっています。選抜 A と B とで評価対象が異なっています。片や A は小論文と面接と提出書類のみですが、B は学力テストが課せられて一般選抜中期日程とはほぼ同様の内容となっています。そもそも A はこの大学からの指定校を対象とした制度なのでしょうか。
 - ⇒ 指定校ではなく長野県内の高校であればどこでも構いません。
- 一概に調査書の評定が 4 以上とは言っても、高校によって差があると思われそうですが、そういうことは関係ないということでしょうか。
 - ⇒ 関係ありません。
- では、推薦 A の中で上位何人ということで合格させるということですね。そうであれば選抜 B でも同じ考え方ができると思いますが、なぜ B には学力試験を課したのでしょうか。
 - ⇒ 制度上、B は選抜方法を変更しないと実施できないことから、学力試験を課しました。また、なるべく全国から広く学生を取りたいこともあり、違った方法にしています。また、B には A に不合格の人も応募できるようにしています。
- もう一つ、今まで前期と後期だった一般選抜が前期と中期になっています。大きな差はないと思いますが、資料 3 によれば一般の前期では 28 年度が 169 名、後期では 31 年度が 193 名と突出しています。先程、前年度が低いと翌年度高くなるとの説明がありましたが、これについては単に前年度が低かったからだけでは説明がつかないと思います。この原因については何か考察しているのでしょうか。
 - ⇒ 28 年度の前年度の 27 年度は非常に低かった。27 年度は某大手進学塾のランキングで高い評価を得たことで志願者が減りました。翌年度はランキングが元に戻ったことに加えて、低い翌年は増えるという傾向が複合的に影響したものと考えています。
- 今度一般の中期になる従来の後期試験の志願者が多いんですが、40 名と 8 名に分けた理由は何ですか。
 - ⇒ 一般選抜の前期を受験する学生は、本学を第一志望としている学生が多いので、ある程度人数を確保したかったこと。また、合格する学生のセンター試験の得点率もかなり高かったこと。これらのことから 40 名を下回る募集人員とすることは避けたかった。とは言っても学校推薦型 B を設ける関係から調整する必要もあった。そこで 40 名としました。中期日程については、現行の後期日程と同じ募集人員で、同じ考え方で実施するものです。ただし、中期日程については、事後選択制で、本学の中期日程

を受けて、その他の国公立の後期日程を同時に出願できます。両方受かった場合には、両方の発表が終わった後に学生がどちらに行くかを選ぶことになります。その関係でかなり学生が受けやすい。その意味ではもう少しほしいと個人的には思いますが、他の関係もあって後期日程と同じにすれば、今の学生の偏差値は確保できると考えています。

○ 前期の方もこれだけ志願者があるので、これは問題ないと思います。ありがとうございました。

○ リカレント教育の充実はどこも課題だと思っています。認知症ケアはこれからも重要だと思えますし、人数的にも充足しているにも関わらず、今回認知症の認定看護師コースを止める理由は何でしょうか。

⇒ ニーズがなくなっただけ下がったということではなく、今でもニーズは非常に高いと考えています。認定看護師制度が特定医行為に移行することが決まっていて、既に3年ほど前から特定医行為を前提とするカリキュラムが入ってきています。お医者さんについて勉強しなければならないカリキュラムです。特定医行為を行う認定看護師教育をするか否かという選択を迫られる状況にあったということです。本学には医学部がありませんので、学生の人数に見合う20か所の実習病院をこの地域で確保して教育することは現実的には非常に難しいこと、特定医行為を行う認定看護師を育成するという方向性が本学や部門を担当する者の考え方と違っていったことが止める理由です。単純に制度が変わるので、本学では対応できなくなったということです。今後は、7年間実施してきた知見や、大学院の老年看護分野専門看護師コースなどを活用して、認知症看護認定看護師を対象とした認知症をサブスペシャリティとする老人専門看護師の育成などに取り組んでいくことを考えています。

○ 今おっしゃった専門看護師コースは、資料8の分野構成図の老年看護学の分野の他にどの分野に設置されているのでしょうか。

⇒ 老年看護学分野の他に小児看護学分野と精神看護学分野に設置しています。

○ 資料1の学生の状況のところに「うち過年度生」という欄があります。後の資料をみても、学生が単位のことや国家試験のことなどで悩みを抱えていることが伺われます。このような学生へのフォローはどのようにしているのでしょうか。また、この大学を目指して入学したけれども卒業できなくて退学している学生の状況等がもしわかったら教えてほしいのと、そういう学生へのフォローを教えてくださいと思います。

⇒ 本学の場合、各学年が入学した年に教員の中から学年顧問を2名配置して、生活の面や学業の面からの相談を受けています。過年度生につきましては、卒業まで担当していた学年顧問の教員が引き続きケアをしています。それから、卒業できなかった者につきましては、履修計画を立ててきちんと単位を取得して卒業できるように取り組んでいます。

退学につきましては、年に1ないし2名ぐらいが最近の状況です。退学の理由は

様々ですが、看護師を目指したいという意思を持って入学したのではなく、何となく入学してしまったとか、本来は看護でない大学へ行きかけたけれども家族に勧められて入学したというような経過があって、進学した後に結果的についていけなくなって断念するというようなケースがあります。退学した学生への特別なフォローはしていませんが、学生から福祉系のほうへ行きたいというような話があれば、本学で取得した単位がどのくらい生かせるかとか、そういう話はさせてもらっています。

- 資料4に平成30年度の卒業生・修了生の進路状況が載っていますが、長野県内に就職された学生の皆さんの中に、病院独自の奨学金をもらって就職した学生さんがどの程度いるのかわかりますでしょうか。

⇒ 日本学生支援機構の奨学金については、こちらを通して手続きを行いますが、個別の病院からの奨学金に関しては、大学に報告する義務がありませんので、全てを把握してはいません。ただ、個別に何かしらの証明書が欲しいというようなときに把握はできますが、そのままずっと奨学金を受け続けているかどうかは把握できていません。そんな状況で、この場でお答えできる具体的な数字は持ち合わせていません。

- 何割程度とかだけでもわかりませんかでしょうか。

⇒ 確実ではありませんが、現在、こちらで県内外含めて病院から奨学金を受けているとして把握しているのは31名です。ただし、あくまで今のところ受けているという人数です。約1割程度が病院の奨学金を受けている状況かと思います。

- 今、奨学金の話が出ましたが、この大学は高等教育無償化制度には手を上げているのでしょうか。

⇒ 無償化の対象大学として認められています。

- 学校によっては、もうその対策を始めているところもありますが、例えば今度の入学予定者から対象とするような検討もされていますか。

⇒ 本学は県の直営大学ですので、県の条例等の改正が必要になりますが、新年度から対応する予定で準備をしています。また、在学生も対象になりますので、現在、学生向けの説明会を開催しています。

(6) 意見交換

- ほかにいかがでしょうか。特になければ、どのようなことでも結構ですので、フリーディスカッションでいきたいと思います。

- まずは感謝です。学生たちが駒ヶ根のいろんなところに出てきてくれて、地域活動してもらったりしていることに心から感謝します。

私は上穂地区に住んでいますが、市民運動会で看護大学の学生が50人も上穂市民として出てくれて3位になりました。いつも最下位のようなところが3位になって、みんなから何で上穂が勝つのかと言われました。今年も色々の地区で看護大生に出させていただいて、

本当に地域になじんでもらっています。先ほど学長さんが地域と一緒にってとおっしゃいましたが、そういう意味では地域を大事にしてもらっています。最近男子学生も増えてきて、そういう人たちがリーダーシップをとって色々動いてくれていますので、そういった点で非常に感謝をしたいと思っています。また入試の改革で地元、地域に根付いた看護師という取り組みをしてもらっていることにも感謝したいと思っています。是非、また色々な意味でそういったことをお願いできたらいいと思っています。

私自身、リカレント教育っていうのは、今ものすごく色々なところで必要だと思っています。私自身もそうですが、私たちが学んだときとは色々なことが変わってきていますので、多分リカレントっていうことに対して関心を持っている人が非常に多いんじゃないかと思っています。

⇒ そうですね。ありがとうございます。

よさこいサークルの学生たちは、あちこちへ出て行って踊りを披露していますし、この前、商工会議所がうちの学生をモデルにした地域おこしのパンフレットをつくってくれました。こういう形でうちの学生をうまく活用してもらったりして、学生がもっともっと地域に出て行って、地域のまちおこしなどに貢献することは、私も大いに推奨したいと思っています。これからも近隣の市町村と一緒にやっていきたいと思っています。

- これからの新たな駒ヶ根市の取り組みですけれど、JICAボランティアに行ってきた皆さんが組織して、今、青年海外協力隊の訓練所を外務省から委託を受けてやっている青年海外協力協会JOCAの本部が昨年駒ヶ根市に移ってきてくれました。その皆さんが目指しているまちづくりがごちゃまぜのまちづくりです。障害を持った皆さん、子ども、お年寄り、そういう人たちがみんな家庭と同じようにまちの中で一緒に暮らすまち、一人一人の役割分担がある生涯活躍のまち。駒ヶ根市はそんなまちづくりを今JOCAと一緒に進めたいと思っています。そうなったときには、ぜひ看護大学を含めたり、今まで以上に地域での貢献という中で学生さんたちも含めたり、また看護大学の特色が出せるような取り組みと一緒にできればいいことだと思っています。少しイメージできるようにお話しすると、今、白山市のほうで実践していて、私も行って見てきました。そういう計画があるわけですが、まず、街の中に温泉を掘ります。そうすると地域の皆さんが来て温泉に入ります。温泉から出ると、ビールを飲んだり、飲食をしたくなります。障害を持った皆さんがそういうサービスを就労型のAとかBでやります。それを核にして障害のある皆さんが集まる。その人たちには役割があります。それからまた、子供たちが学校から帰ってきたりする学童施設もそこへ併設する。お年寄りの特養やデイサービスもそこに一緒にして、みんながそういうところに集まって、ビールを飲もうとすると、障がいのある人の中にはお酌するのがとても上手で、とても喜んでやる人がいます。また、アスペルガーの子どもの中にも、そういうことにたけている子どもがいて、無言だけどサービスができる。そういう皆さんが子どもたちと接して遊ぶことによって自分の役割ができて、ず

っと変わっていきます。それぞれに役割ができることで、それぞれが変わっていく姿を見てきました。今まで、行政もそうですが、子育ては子育てだけ、障がいのある人は障がいのある人だけ、高齢者は高齢者だけというように縦割りにしてしまったわけですが、今は国でもそういった弊害を回避するために、各省庁じゃなくて、内閣府1本で色々の支援ができるような体制をつくろうとしています。今、そんなまちづくりに駒ヶ根市も挑戦したいと思っています。実現するためには、多くの人材が必要になりますので、是非今まで以上に地域貢献に期待しています。そういう中で、やはりまちづくりを進めていくにはいかに人材が必要かということを感じていますので、そういう意味では、色々なことに挑戦するリカレント教育をやっていただければいいと思っています。

市もそうですが、保健師をなかなか採用できません。採用してもすぐに育休に入ったりするものですから、人材不足になっています。そういう点では、リカレント教育をして、家庭に入った人が自信を持ってまた社会に出てくる、そういう体制ができれば人材が有意義に回っていくとも思いますので、期待したいと思います。

⇒ 今後とも、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。ほかにどうでしょう。

- 今、駒ヶ根の地域貢献という話がありました。いつもここで言っていますが、看護大学は駒ヶ根だけではなくて、上伊那、場合によっては伊那谷にとって宝だと私は思っています。私が住んでいるのは上伊那の中でも北のほうになりますが、この大学の発信する力がまだ決して強くはないと思っています。せっかくいいものがあるんですから、駒ヶ根だけにとどまらず、上伊那の北のほう、あるいは下伊那、そういったところにも色々な形で出て行ってほしいと思います。

前から学長先生にお聞きしたいと思っていましたが、「里山看護学」はすごくいい発想だと個人的には思っています。ぜひ応援したいと思っていますが、里山という言葉がこの地域ではそんなに使われていない言葉のように思えて、どうなのかなという思いをもっています。いわゆる地域看護学というのは、在宅医療に限らず、むしろもっとほかのところには何か重要性があるような気がしています。里山看護学の思想や考え方を発揮しながら、ぜひこの地域から発信してほしいと思います。恐らく里山看護学って言葉がみんなの耳になじんでくれば、すごい大化けするのではないかという気がします。ちょっとまだ発信の力が弱いというか、里山看護学の思想や考え方がまだ十分にみんなに伝わっていないのかなという気がしています。

それから、もう一点。先ほど県内に留まる人が6割という話がありました。県外から入学してきた人で県内に残る人は非常に少ないような気がします。資料1の4ページの一番上のところでいくと3名です。その辺が、ぜひもっと増えてくれると本当にいいなと思います。長野県はブランド力のある地域だと思いますので、その辺をもっと浸透させて、ぜひ県外から入学した人にここに残ってもらえたら本当にいいと思います。具体的にどうしたらいいという提案ではなくて申しわけないですが、そんなことを思います。

⇒ 先ほど入試検討委員長が言いましたが、今度試験制度を変えて、長野県内で就職し

たいという方を、8名だけですが入れたいと思っています。入学時にはそう言っても、もしかしたら途中で嫌だと言いつくす可能性もなきにしもあらずですが、そういう志のある方をなるべく入れたいと思っています。

- ぜひ、色々な色を持った学生にここに残ってもらえれば、この地域にとってもいいことだと思っています。

あと1点。最近は色々な情報を配信するときに、ネットなどで発信するんですが、メディアに出てくる露出度が必ずしも看護大学は多くないような気がします。メディアがいいとは限りませんが、地域に入り込むと知る手段は未だに新聞であったり有線放送であったりです。いいことをいっぱいやっていると思いますので、そういうメディアを使ってもう少し発信してもいいのかなという感じがします。

⇒ ありがとうございます。先ほども申し上げましたが、看護職者の需給見通しはほぼ100%に近いというふうに聞いていますが、偏在はあります。この南信地域には、やっぱり北と南とで南北格差が、医療ではあるのではないかと考えています。そういう意味では、この大学が大学としてあるのはとても意味深いと思っています。これからも看護の単科のままいくのか、ずっと後かもしれませんが、場合によっては福祉も考えることができるのかもしれませんが、全くわかりませんが、少なくとも伊那谷の駒ヶ根というところにこの大学があるということの存在意義は計り知れないということもこれから発信していく必要があると思います。きょうは県の医療推進課の方も来ていますが、ぜひそういうことも考えてほしいと思いますし、むしろ私どもも皆様方のお力添えとか御協力を得ながら、県に言っていきたいと思っています。もっともっと発信力をつけたいと思っています。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

- 今日は、訪問看護ステーション連絡協議会ということで、訪問看護の代表として来させてもらっています。先ほどからも話がありましたが、地域包括ケアシステムということで、自分の住みなれた地域で高齢者も大人も子供もみんなが最後まで生活したいという望みを地域で支えていくということが展開されていて、訪問看護の担う役割というか、期待されているものがすごく大きいと感じています。私自身、訪問看護に携わるようになって10年ぐらいになりますが、やはり訪問看護、在宅の分野はなかなか卒業後すぐのフレッシュな学生さんとかかわることが少ない分野だと感じています。昨今、訪問看護の分野でも人材育成ですとか、新卒の看護師さんたちの教育にもこれからは力を入れていかなければいけないということで、昨年からは長野県での訪問看護師の教育ラダーをつくって、今年度から実践しています。それに先立って、今年度の研修では、先駆けてやっている滋賀県の訪問看護ステーションの方からお話をお聞きしました。滋賀県では、もう新卒の看護師の訪問看護師への採用が始まっているということで、新卒看護師を教育するシステムを何年かけて作り上げているということでした。ただ、卒業後ひとり立ちするまでには2年かかるとも言っていて、今試験的に看護系大学で、助産師のコースも保健師のコースも専攻しない人に在宅とか訪問看護の分野を専攻するコースを設けてやっているところ

もあるとお聞きしました。皆さんも御苦労されていることを伺って、私たちもこれから在宅を担っていく看護師をどう教育していくのが課題だと思っています。一方で、夢や意欲を持って看護師になった方たちが働きたいと思えるような教育システムであり、医療現場であり続けることが一番なのかなとも感じています。その辺については、皆さん方からも御意見をいただいて、私たちの教育や人材育成にも生かしていけたらいいと思っています。

私が学んだのは20数年前、30年近く前ですが、今は学校のカリキュラムでも私たちの頃よりも在宅とか訪問看護とかに力を入れていると聞いていますし、訪問看護をやりたいと思っている若い人たちもたくさんいると聞いています。看護師とか医療現場はいい勉強だと思いますが、受け皿としては卒業してからの教育は難しいと感じています。また、色々教えていただけたらいいと思っています。

⇒ 情報提供になりますが、先ほど学長からもカリキュラムが変わるという話をしました。最近の動向ですと、その中で現行の在宅看護論を地域・在宅看護論に名称変更して、実習の単位数を現行の2単位からトータルで6単位に増やす方針になっています。文部科学省はまだ出していませんが、厚生労働省の指定規則では看護師試験の受験資格としてそれだけの教育をなささいということになりました。それに対応していく大学が増えるでしょうから、大分変わっていくのかなと思っています。また、本学の特徴として、保健師の免許を取るために必要な科目を必須科目にしている、卒業時に全員が保健師の受験資格を取得できるカリキュラムになっています。保健師資格を取得するための教育は実習まで含めて全てやっていますので、仮に就職が保健師ではなくても地域が見える看護職を育成していると思っています。これは非常に大きな特色です。在宅という、地域が見えることを非常に重視したカリキュラム、基礎教育になっていますので、現場のニーズにできるだけ応えられる教育内容の整備には努力をしているつもりですし、これからも努力をしたいと思っています。

○ ありがとうございます。今、県内に訪問看護師テーションは全部で155ぐらいありますが、連絡協議会に入っているのは135事業所です。その中で実際に新卒の看護師を採用しているステーションは本当にまだ少ないです。私たちとしても、卒業後すぐの学生を育てる力を持っていないのが今の実情だと思っています。今始まったラダーシステムもそうですが、そういったところにも今後力を入れていかなければいけないと本当に感じています。

○ きょう初めて参加させていただき、ありがとうございます。

日ごろスタッフの研究にも色々お手伝いいただき、ありがとうございます。

場所的なこともあると思いますが、これからは確かに地域を見据えた看護師、保健師ということが本当に一番重要になってくると現場でもひしひしと感じています。マグネット・カレッジということが打ち出されていますが、本当に魅力ある学校を目指していただけるといいと思います。自分のところの話をしますと、最近はこども病院もなかなか採

用の人数の学生が集まらないこともあります。前は結構人気で来てもらっていたこともあります。できるだけ長野県に県外の方も来てもらって、地域に貢献してもらえそうな教育をしてもらえるとうれしいです。

○ 初めて参加させていただきます。

先ほどから学長さんが繰り返して、地域の中における大学ということや、地元の駒ヶ根市、あるいは長野県南部の拠点ということをとっても重要なキーワードとして捉えていただいていることがよくわかって、大変心強く思っています。

私は、この大学が開学したころに地元としてどうやって皆さんを歓迎しようかということであれこれ考えて、まだ二十前ですからお酒は飲めないということもあつたりしましたが、学生さん全員をお呼びして大規模に歓迎会をやった記憶があります。今ここにおいでの方の委員の中にも、多分そのときに私は見たことがあると、先ほど顔を見て思い出しました。地元として、大学ができるのは初めてのことでしたから、どうやって溶け込んでもらえるのか、また我々も何かちょっととっつきにくいような存在であるというのをどうやって僕らの共通の財産としていこうかということであれこれ模索する中で、歓迎会を4～5回ぐらいやったように記憶しています。今はもちろんやっていませんが、色々な形で地元にしっかりと溶け込んでもらって、地域の一員となっているということですので、大変うれしく思っています。

今日は、初めてで難しいことが多かったのですが、また考えをまとめて何かお話しできることもあろうかと感じています。

○ 長野大学は千曲川に近いということもあって、今回開学以来初めて、避難所を開設しました。一番多いピーク時で500名の避難者の方々を受け入れてきました。この取り組みの中で、その地域は災害ということ余り想定していない地域だということ非常に実感していますし、大学としても初めての対応だったということもありいくつか感じるがありました。避難所には色々な方が避難してきます。サービス付き高齢者向け住宅という高齢者の方々を受け入れているところの方がそっくり避難して来たり、在宅の障害者の方が避難して来たり、当然、病気のある方々も避難して来たり、本当に多種多様な方々が避難して来りました。そういう方たちへの対応を考えたときに、避難者あるいは被災者について新しく持った問題意識は、被災者福祉あるいは被災者看護や医療を柱として考えていく必要があるのではないかとということです。地域の包括的な支援は必要ですが、避難者への包括的な支援が本当に必要です。多種多様な方々が精神的にも肉体的にも大変な状況で逃げてこられます。それには各専門職が協力していかないと対応できないというのが初めて体験してみた実感です。福祉的な部分は我々でできますが、医療的な部分はやっぱり弱いです。集中豪雨型の災害がいつどこで起きるかわからないような気候状態になってきていますので、新たな今回の体験としても、被災者の保健や医療、被災者の福祉サービスっていうのは新たな課題なのかなと感じています。いつか、どこかで、そういう問題意識で地域への対応や地域への支援も考えていくことが大学としても必要な時期

なのかなと感じています。ですから、今回の直接的な議題とは関係ないんですが、福祉や医療の専門職を養成していく学校として、そこはこれからの課題なのかなというのを感じたということで、そういう問題意識を共有していただけるとありがたいなと感じております。直接のきょうの議題とかかわらないところの発言で申しわけないですけども、今回、我々としても初めての体験でしたので、そんなふうを感じています。

今、長野市のほうに学生がボランティアで毎日 20 名～30 名入っています。やはり精神的にも相当大きなダメージがあります。そういうところも、福祉系としてこれからどう考えていくのかは大きな課題だと思いながら、今、学生を送り出しています。

⇒ 被災者の方々のリーダーのような方の養成、育成も必要ということですかね。

- 育成も必要ですし、専門職がサポートする必要があると感じています。実際に避難し、あるいは被災した方たちがうちの避難所に来て、もうごっちゃにいるわけです。そうすると、例えば犬を連れて避難してきた方と犬のアレルギーがある方が一緒になってしまいます。それをどうするのか判断できないと、被災して来てさらにアレルギーを起こしてしまうということが実はあって、急遽教室を1つあけるという対応をしました。規模が大きい場合には、各々の専門職が連携して支援していくことが必要になってくると感じています。在宅の方々の中には色々な皆さんがいて、対応にあたっては福祉の知識だけでは無理ですし、医療的な、あるいは看護的な、あるいは介護の知識が必要になる方もいらっしゃいます。そういう意味では新たな問題意識を今回持たざるを得なかったですし、そういう問題意識を共有がしていけるといいと今考えています。

⇒ そういう方面のコラボが本当にできたらいいですね。よろしくお願いします。

- 公立大学としては、そこは避けて通れないと思います。

⇒ 本学の場合看護職が多いので、災害看護はかなり盛んにいろんな学術団体が取り組んできています。本学でやっている特徴的な試みは、やはり大規模災害に備えておくという点で、地域の住民と一緒に地域包括的な避難訓練を具体的に実施したほうがいいということで、市町村や各地区で実施している防災の日の避難訓練を大学と一緒にやるという取り組みをしています。本学は上穂地区の近隣の町の方たちの緊急避難場所であり、指定避難場所開設の施設になっていますので、お年寄りやお子さん連れの方など住民の皆さんにここに避難して来てもらう訓練を駒ヶ根市地震総合防災訓練に併せてやっています。大学では防災委員会が主体となって地域貢献部門など関連するところが一緒になってやっています。そのときに避難だけではなく、避難場所となる体育館を実際に見たり、ここが避難所になった場合にどうやって何をするのか、例えば傷の手当や避難所の環境づくりの仕方から、トイレに近い位置はお年寄りにしましょうというようなシミュレーション、弾性ストッキングの試着体験をしたりといった取り組みを2年くらいやってみました。病院だけの避難訓練、学校だけの避難訓練ではなくて、施設、地域を横断的に大規模災害に備えた避難訓練を実践することが、住民の皆さんにとって何かのときにとっても役立ちそうな経験だった

ということで好評でした。私たちも住民の方と一緒にそれを実践して、大変でしたが非常に楽しかった。市民の皆さんとも一緒にいろんな経験をしながら交流できたらしいと思っています。今後とも、ぜひ、いろんな点を教えてもらえればと思います。

- 去年出席させてもらったときに、大学の情報が余り病院で働いている職員にはきていないのではないかということをお話ししたかと思います。その後、私も注意深く色々な情報をキャッチしてみると、やっぱり病院には大学からの情報はちゃんと来ています。今は、いろんな講演会とか、研修会とか、あらゆる情報をいつも送っていただいていますので、それをみんなに見えるところに張るといったことも病院では取り組んだりしています。きょうの学長先生の話からも、大学として本当にオリジナリティーをもって、発展のために頑張ってもらっていることを感じて、同窓生として非常にありがたいと思っています。

私たち卒業生も 2,000 人近くになってきましたので、徐々にいろんな学会でとかで顔を合わせるようになってきました。先日の看護管理学会でも事務局で同窓生が活躍していたりして、今は病院で働いているスタッフもいますけれども、徐々にこれから自分のやりたい看護を発信できるようになってきているんじゃないかと思っています。

伊那、上伊那、下伊那はもちろんですけれども、駒ヶ根の皆様には大学のときに本当によくしてもらいました。私の同級生は、最近毎年、リンゴ狩りに来ていて、私たち卒業生みんなで駒ヶ根に泊まってリンゴ狩りをするという旅行の計画もしています。大事にもらっていますので、少し県内から離れた卒業生も駒ヶ根や県内に戻って来ることがあるんじゃないかと思っています。

1つだけ、ちょっと気になったことがあります。それは、助産師の育成に関してです。昨年度は、助産師試験の合格者が5人しかなくて、非常に残念だったと思います。しかも、その助産師5人全員が県外に就職をしたということです。助産師教育というのは非常に難しいと思いますが、看護大の学生の中には助産師になりたいと思って入学する学生が多いかと思っています。できれば支えていただいて、私たちも施設として何か支えられることがあったら協力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

⇒ 助産師は、私どもの目標としては毎年10名出したいんですが、色々な事情の中で少し減ったりしています。実際に助産師になりたいっていう方もたくさんいますから、それに応えたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

そろそろ時間になってきましたが、ほかに皆様方から何かございますか。

- 直接的なことではないですが、最初に学長先生が言ったように、県内に現在看護系の大学が5つ、これから6つと増えてきます。この大学は保健師を全員が必修ですから実習場所などはきっと充足していると思いますが、新しい大学ではなかなか厳しい状況があり、現地実習もままならない状況が生じてきています。できるだけ協力し合って質のよい看護職、専門職の育成を考えたり、先ほどの避難の訓練の話なども参考にしたいすばらしい取り組みだと思いましたが、連携しながらそういった各大学の特徴や独自色を出してい

くために、看護系大学のつながりや、先ほど話のあった福祉、看護、医療といった大学連携と、これを地域に広げていくためのシステムというか、ネットワークができたらいいと思います。よろしくお願いします。

⇒ 先ほども言いましたが、確かに県内では現在看護系大学が5つで、21年度には6つになり、最大勢力になってきています。そういう意味では、私どもも老舗の看護大学として、リーダーシップを発揮しながら一緒になって長野県の保健、医療に貢献できたらいいと思っています。今後ともぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。

4 その他
特になし

5 閉 会